

八王子市社会福祉審議会 児童福祉専門分科会

令和4年度（2022年度） 第2回会議 次第

令和4年（2022年）6月17日（金）
午後1時00分～午後3時30分
市役所議会棟全員協議会室

1 開 会

2 議 題

- （1）八王子市子ども・若者育成支援計画 ビジョン すくすく てくてく
はちおうじ 令和3年度（2021年度）取組状況の点検及び評価について

3 その他

4 閉 会

【配付資料】

- 資料1 八王子市子ども・若者育成支援計画 点検・評価報告書案（令和3年度分）
（基本方針1・2・3・5）

妊娠から出産、子育てまでの切れ目ない支援や情報提供が行われており、妊婦は心身ともに安定した状態で出産を迎えます。誕生した赤ちゃんは、家族や地域の愛情に包まれながら健やかに成長しています。

出産した母親や赤ちゃんを迎えた家庭が、必要な支援を受けられ、地域のつながりの中で孤立感を感じることなく安心して子育てをしています。

重点施策

施策13 八王子版ネウボラによるきめ細かな相談・支援の充実

保健師等による妊婦面談の実施 ・保健師等による妊婦面談を実施しました。(実施率84.9%)

利用者のニーズに合わせた産後ケア事業の実施 ・利用者のニーズに合わせた産後ケア事業を実施しました(利用件数 941件 (宿泊型297件 通所型65件 訪問型579件))

妊娠期からの仲間づくりや家庭での準備をサポートする講座等の充実 ・親子ふれあい・つどいの広場にて、プレママ講座を52回開催し、301人が参加しました。

産前・産後期の家庭へのヘルパーの派遣 ・産前・産後サポート事業(ハローベビーサポート)を実施しました。(利用者数 382人、延べ利用時間数 2,253時間)

施策14 親と子の健康づくりの推進

あかちゃん訪問事業の実施 あかちゃんが産まれた全てのご家庭に保健師・訪問指導員が伺い、発育・発達や産後の体調などを相談できる、あかちゃん訪問事業を実施しました。(実施率99.3%)

乳幼児健診・予防接種の実施 子どもの疾病予防を図るため、予防接種法に基づく定期接種及び市独自の特別接種(B型肝炎、おたふく風邪及び風しん麻しん)を実施した。また、近隣市との相互乗り入れにより接種しやすい環境を整備した。

3歳児健診における視機能簡易検査の導入 3歳児健診において令和元年度に開始した視機能簡易検査を継続し、必要に応じて医療機関へ受診勧奨を行いました。

	指標	策定時 (2018年度)	2020年度 実績値	2021年度 実績値	2022年度	2023年度	中間値 (2022年度)	目標値 (2024年度)
1	妊婦面談実施率	79.9%	95.7%	84.9%			95%以上	95%以上
2	赤ちゃん訪問事業の訪問率	93.9%	96.2%	99.3%			95.0%	95%以上
3	産後ケア事業(通所型・宿泊型)の実施	未実施	実施	実施			実施	実施

自己評価

B	<ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃん訪問事業の訪問率は令和2年度と比較して上昇し、99.3%となりました。 ・産後ケア事業の利用件数は941件となり、令和2年度の838件から増加となりました。 ・3歳児健診における視機能簡易検査を継続して実施しました。
---	---

児童福祉専門分科会による評価

--	--

--

仕事と子育ての調和のとれた生活を希望するすべての家庭が、安心して子どもを育てながら働くことができています。働きやすく子育てしやすい職場環境が整い、父親も母親も協力しながら子育てをし、ワーク・ライフ・バランスを実現しています。

施策15 多様な教育・保育の提供

- 病児・病後児保育の拡充 ・企業主導型保育所1園で新たに病児保育事業を開始し累計で6園になりました。
- 認定子ども園の設置促進 ・1園の認可保育所が幼保連携型認定こども園に移行し、累計で12園となりました。また、認定こども園の推進や事業者への支援等について、関係団体に周知を行いました。
- ショートステイ・トワイライトステイ事業の充実 ・対象年齢の引き下げ及び緊急時の受け入れ体制の拡充を実施しました。
- ファミリー・サポート・センター事業の充実 ・保育サポート講習、緊急救命講習等の実施や、育児の支援を行う提供会員の確保・育成を行いました。

重点施策

施策16 学童保育所の整備・拡充

- 学童保育所の施設整備 ・待機児童が見込まれた2つの小学校の余裕教室等を学童保育所に改修したほか、児童の安全性や利便性を向上させるために、小学校の敷地外で運営している学童保育所の学校内移転整備を実施した結果、学童保育所の待機児童は0人となりました。
- 一体型の学童保育所・放課後子ども教室の拡充 ・放課後子ども教室で開催される活動プログラムに学童保育所からも参加しやすくなるような環境づくりを行うとともに、学習補助・スポーツ教室・伝統文化体験・読書の読み聞かせなど、それぞれの学校の特性を活かした多様な活動プログラムの充実を図りました。
- 学童保育所における夏休みの昼食提供 ・昼食提供の拡充を図るため、小学校の給食調理室の調理機能を活用した昼食提供を12校で実施しました。
- 学童保育所での高学年の受け入れ拡大 ・令和3年度より3施設で受け入れを拡大し、累計23施設となりました。

施策17 子育てと仕事が両立できる環境づくり

- ワーク・ライフ・バランスについての情報発信 ・母子手帳の交付を申請した市民へ配布する、父親の育児休業取得促進リーフレットを作成しました。(4,000枚)
・八王子商工会議所会員企業(1,666社)へ事業者向けワーク・ライフ・バランス啓発リーフレットを配布しました。
- 子育て応援企業への支援の充実及び表彰制度の検討 ・令和3年度はメーリングリストを活用し、子育て応援企業への情報提供を行いました。
- 女性のための再就職支援 ・ハローワーク八王子(マザーズコーナー)との共催で、託児付きのパソコン講習会(全3日間、参加者延20名、託児利用延8名)を行い、子育て中の女性がハ王子しごと情報館で求職活動をする際に、「ほっとタイムサービス」での託児を実施しました。(利用者13名)
・就労支援セミナー・講座を開催しました。「育休パパ・ママの職場復帰セミナー」(参加者19名)、「働く女性のためのストレスの処方箋」(参加者11名)、「女性のための小さな起業講座」(参加者延べ38名)
- 子育てと仕事の両立支援 ・ハローワーク八王子(マザーズコーナー)との共催で、パートタイムセミナー(2回、参加者58名、託児利用5名)を行いました。

	指標	策定時 (2018年度)	2020年度 実績値	2021年度 実績値	2022年度	2023年度	中間値 (2022年度)	目標値 (2024年度)
1	保育所待機児童の数	26人	19人	12人			0人	0人
2	公立保育所における一時保育の拡充	-	実施	実施			実施	実施
3	学童保育所待機児童の数	215人	154人	0人			22人	0人
4	一体型の学童保育所・放課後子ども教室の実施校数	43校	51校	51校			53校	53校
5	子育て応援企業の登録数	188 事業所	188 事業所	185 事業所			200 事業所	210 事業所

自己評価

A	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所における待機児童数は令和2年度から7人減少し、12人となりました。 ・学童保育所の待機児童数は令和2年度の154人から減少し、0人となりました。 ・学童保育所での高学年の受け入れについて、3施設で受け入れを拡大し23施設となりました。 ・子育て応援企業の登録数について、新型コロナウイルスの影響により取り組みを継続できなくなった企業の登録が廃止となったことで減少となりましたが、1事業所の新規登録がありました。
---	--

児童福祉専門分科会による評価

--	--

--

子育て家庭の生活基盤が安定しており、家庭内に愛情が満ち、子どもの健やかな成長へとつながっています。子育てについて学ぶ場や仲間づくりの機会が充実し、親自身も成長していく中で喜びや楽しさ、生きがいを感じながら子育てができています。

施策18 子育て家庭への経済的支援

幼児教育・保育の無償化	・国制度の幼児教育・保育の無償化にあわせ、本市独自の保護者負担軽減を実施しました。
子育て家庭への住宅支援の充実	・令和3年10月の市営住宅入居募集において、子育て世帯向け定期使用住宅3戸を募集しました。 ・家賃補助対象住宅において、子育て世帯を対象に入居者を募集しました。
各種手当・医療費の助成	・児童手当・児童扶養手当・児童育成手当の支給、乳幼児・義務教育就学児・ひとり親家庭などへの医療費助成の実施により、子育て家庭への経済的支援を行いました。 ・新型コロナウイルス感染症が長期化する中で、子育て世帯を支援するため、対象児童1人あたり10万円の臨時特別給付金を支給しました。
多子軽減の実施	・幼児教育・保育の無償化にあわせ、保育料の算定に係る生計同一兄弟の年齢制限を撤廃し、第2子は半額、第3子以降は無料とする多子世帯の負担軽減を実施しました。 ・学童保育所では、保育料を第2子以降を4,500円に軽減しました。（第1子は7,000円）
特定不妊治療費助成の実施	・不妊治療の経済的な負担の軽減を図るため、特定不妊治療費の助成を行いました。 R3年度実績（見込み） 決定 951件、助成額 231,110,158円

施策19 家庭における食育や家庭教育の支援

家庭教育の支援の充実	・市内小学校6校にて、各校1回家庭教育支援講座を実施し、延べ152人が参加しました。
親子クッキングや公立保育園での給食試食会の実施	・親子ふれあい・つどいの広場で、子育て講座や季節行事のイベントを開催しました。 ・親子クッキングを6回実施しました。（コロナ感染症拡大防止のため、4回中止。）

施策20 子育ての楽しさを支える学びの場の提供

子育てに関する講座やイベントの充実	・子育て応援ひろば、家庭教育講座を実施しました。 ・親子ふれあい・つどいの広場にて、子育て講座を1,631回開催し、15,833人が参加しました。
父親の育児参加の促進	・令和3年11月にコロナ禍で外遊びの機会が少なくなっている子どもに遊びの場を提供するため、はちりんピックを開催し、4,791人が参加しました。 ・児童館では、父親の育児参加を促す講座や行事を主に日曜日に開催しました。 ・親子の健康ガイドやババマクラス等で父親の育児参加の促進を図りました。 ・母子手帳の交付を申請した市民に対して父親の育児休業取得促進リーフレットを4,000枚作成し、配布しました。 ・親子ふれあい・つどいの広場にて、父親参加型の子育て講座・イベントを開催しました。

	指標	策定時 (2018年度)	2020年度 実績値	2021年度 実績値	2022年度	2023年度	中間値 (2022年度)	目標値 (2024年 度)
1	毎日朝食を食べる3歳児の割合	95.9%	96.8%	96.6%			98.0%	98%以上
2	パパママクラスなどの健康教育(母性科)の開催回数	75回	27回	40回			75回	75回
3	「のびのび子育て講座」実施数	1,050回	986回	1,631回			1,074回	1,086回

自己評価

B	<ul style="list-style-type: none"> ・特定不妊治療費助成の実施について、951件となり、令和2年度の551件から増加しました。 ・パパママクラスなどの健康教育について、新型コロナウイルス感染拡大前と比較すると減少とはなっていますが、令和2年度からは13回増加し、40回となりました。 ・対象児童1人あたり10万円の臨時特別給付金を支給し、子育て世帯を支援しました。
---	--

児童福祉専門分科会による評価

--	--

--

子どもの成長に寄り添い喜びや悩みを分かちあえる人や、子どもの発達や家庭の状況にふさわしい支援をコーディネートしてくれる身近な支援者の存在が、親にとって大きなこころの支えとなり、安心して楽しい子育てへとつながっています。

重点施策

施策21 子育てひろばの充実

「子育てひろばガイドライン」の策定・実施

・子育てひろばの利用者がより安心して利用できるように一定の基準を定める、子育てひろばガイドラインの原案を作成しました。

子育てひろばに関する情報発信の充実

・子育てひろばでのイベントや講座情報を広報やホームページで発信し、情報の充実に努めました。
・毎月各ひろばでイベントや講座を掲載した「ひろばのおたより」を作成しました。

子育てひろばと地域の連携推進

・子育てひろばでの講座に地域の人材を講師として活用しました。

施策22 子育てに関する相談体制

子育てひろばでの相談体制の充実

・児童館の子育てひろばでは、職員が親の不安や悩みの聞き手となり、不安の解消に勤めました。
・親子ふれあい・つどいの広場に子育てひろばコンシェルジュを配置しました。

公立保育園の保育士による子育て訪問相談

・195回、子育て訪問相談を実施しました。

多様化する家庭の悩みに対する包括的な相談・支援体制

・はちまるサポートを核として包括的支援体制の構築を進め、複合的な課題を抱え課題の解きほぐしが求められる事例に対して支援を行いました。

乳幼児健診時における相談の充実

・乳幼児健診時において医師や専門職による相談を実施しました。

子ども食堂における、子どもや保護者の居場所づくりや気軽に悩みを話せる場づくりの支援

・八王子食堂ネットワークによりSNSなどで情報発信を行い、広く周知を行いました。

	指標	策定時 (2018年度)	2020年度 実績値	2021年度 実績値	2022年度	2023年度	中間値 (2022年度)	目標値 (2024年 度)
1	子育てひろばガイドラインの策定	-	検討	原案作成			策定	実施
2	地域福祉推進拠点の整備数(社会福祉協議会)	4か所	9か所	10か所			21か所	21か所

自己評価

B

- ・子育てひろばガイドラインの原案を作成しました。
- ・地域福祉推進拠点の整備数は1か所増加し、10か所となりました。
- ・八王子食堂ネットワークによりSNSなどで情報発信を行い、広く周知を行いました。
- ・子育てひろば、児童館など身近な場所で相談を受け付けました。

児童福祉専門分科会による評価

市民・企業・大学等がつながりながら、地域全体が子どもの育成や子育て支援に参加し、その活動の輪が様々な場所に広がっています。市全体で、未来を担う子どもの健やかな育ちを応援し、子育ての喜びや楽しさが実感できるまちづくりが進んでいます。

施策23 子育てを応援する市民活動団体の支援

市民活動団体等のネットワークづくりの支援

・子育て講座において、地域の人材を講師に依頼しました。
市民活動支援センターにおいて、子育て支援を行っている団体に対する活動支援を行いました。

市民活動団体等の取組についての情報発信

・イベント情報などを掲載した地域子育て支援情報誌を配布しました。

子ども食堂や無料学習塾等の活動支援

・八王子食堂ネットワークの連絡会や団体間の連携により情報交換の場を提供し、また、市の補助金を支給し活動の費用を支援しました。

重点施策

施策24 企業・大学等の参加による子ども・子育て支援

子育て応援企業の活動支援

・子育て応援企業の活動を子育てガイドブックや子育て応援サイトに掲載しました。また、はちりんピックでは、実行委員や出展者として、子育て応援企業の協力があり、活動を周知する場としました。

大学等との連携による子ども・子育て支援の充実

・小学校4～6年生を対象に、大学等が講座を提供する大学コンソーシアム八王子主催「夏休み子どもいちょう塾」を18講座実施し、301名が参加しました。
・大学コンソーシアム八王子が大学等の小学生向けイベント情報をまとめた「八王子まるごと子どもキャンパス」を発行し、市立小学校1～6年生全児童に配布しました。

市民や企業、大学など、多様な立場からの子ども・子育て支援への参画・協働の推進

・児童館では、大学のサッカー部からサッカーボールの寄付を受け入れました。
・大学の研究室と連携して、発達に課題のあるお子さんと保護者への支援を行いました。

施策25 子育て施設や学校施設を核とした地域づくり

子育て支援施設を核とした地域連携の推進

・各児童館で、児童館活動の理解促進と地域ぐるみによる子育ての意識を高めるための地域連絡会を開催しました。
・学校や協力団体等地区単位で集まり情報共有を行うことで、各地域での支援体制の推進を図りました。

学校施設を核とした地域づくりの推進

学校運営協議会委員や学校コーディネーターを対象とした合同研修会を実施しました。

	指標	策定時 (2018年度)	2020年度 実績値	2021年度 実績値	2022年度	2023年度	中間値 (2022年度)	目標値 (2024年度)
1	子ども食堂等を実施する団体数(再掲)	21団体	31団体	35団体			30団体	35団体
2	子育て応援企業の登録数(再掲)	188事業所	188事業所	185事業所			200事業所	210事業所

自己評価

B	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども食堂等を実施する団体数は4団体増加し、35団体となりました。 ・子育て応援企業の登録数について、新型コロナウイルスの影響により取り組みを継続できなくなった企業の登録が廃止となったことで減少となりましたが、1事業所の新規登録がありました。 ・はちりんピックを開催し、実行委員や出展者として子育て応援企業の協力があり、活動を周知する場としました。
---	---

児童福祉専門分科会による評価

--	--

--

地域の支援者が、子どもの成長を喜びながら子どもや子育てをサポートし、お互いに支えあい学びあえる環境が整っています。地域の中で、子育てを通じて人と人とのつながりや支援の輪が広がり、親自身が次代の子育て支援の担い手となる好循環が生まれています。

施策26 子育てボランティアへの支援

子育てボランティアへの参加促進

・市のホームページの児童館ページにて、通年でボランティア募集の案内を掲載しました。
・市内6か所の子ども家庭支援センターで、子育て支援を行うボランティアを募集・登録を行いました。
・市民活動支援センターにおいて、場所の提供やイベントを共同で開催するなど子育て支援を行っている団体に対する活動支援を行いました。（令和3年度は生きづらさを抱える若者の支援者向け交流会、滝山城・城攻め体感などのイベントを市民団体と共同で実施）

学生ボランティアの育成

・大学コンソーシアム八王子の八王子地域学生生活動連絡会で学生ボランティアの育成にあたり大学等と地域のより一層の連携に向けた「体制づくり」を目指し、シンポジウムを開催し317名（オンライン含む）が参加しました。

学習支援を通じた世代交流の場づくり
・シニア世代を対象とした学習支援者の養成講座を実施しました。

施策27 子育て支援者の活動の促進

子育て支援に関わる研修やネットワークの充実

・民生委員児童委員協議会の部会活動等で子育て支援に関する研修を実施しました。

ファミリー・サポート・センター事業の充実

・ファミリー・サポート・センター事業の提供会員向けにフォロー研修・救急救命講習・調整会議・交流会を行いました。

	指標	策定時 (2018年度)	2020年度 実績値	2021年度 実績値	2022年度	2023年度	中間値 (2022年度)	目標値 (2024年度)
1	子育て応援団Beeネットの登録者数(累計)	579人	597人	597人			640人	700人
2	ファミリー・サポート・センター提供会員数	693人	676人	639人			731人	751人

自己評価

C	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て応援団Beeネットは新型コロナウイルス感染拡大の影響で活動を休止しました。 ・広告を出したり民生児童委員の集まりで周知をするなどの取組を行ったものの、ファミリー・サポート・センター提供会員数は減少となりましたが、ファミリーサポートセンター事業の提供会員向けにフォロー研修・救急救命講習・調整会議・交流会を行い、ネットワークの充実に努めました。 ・大学コンソーシアム八王子の八王子地域学生生活動連絡会でシンポジウムを開催し、オンラインを含めて317名が参加しました。
---	--

児童福祉専門分科会による評価

--	--

--

子育てプロモーション活動を通じて、子どもや子育て支援に関する地域の情報や取組がつながり、親子と地域の様々な人が出会い・交流することによって、地域活動が活性化しています。まちへの愛着が生まれ、このまちで子育てしたい、住み続けたいという気運が醸成されています。

子どもの成長が、私たちの未来に関わる大切なこととして、すべての人が関心を持ち、子育てを応援することが地域にとっても豊かな営みとなっています。

重点施策

施策28 みんなに届く子育て情報の発信

様々な媒体を活用した多様な情報発信

・八王子市ホームページに学校フォトニュースを掲載しました。
・妊娠・出産から子育てまで、幅広い子育て支援の情報をまとめた「子育てガイドブック」を発行し、本庁舎や事務所、保健センター等で配布しました。

子育てサイトの運営

・子育て応援サイトを運営し、イベント情報や子育て支援情報を発信しました。

八王子市の魅力を伝える積極的な子育てプロモーション

・雑誌やWebサイトからのインタビュー等に対応し、八王子市の子ども・子育て環境をPRしました。
・すくてく・はちおうじ(Facebook・twitter)で子どもや子育てに関わる情報を発信しました。

施策29 子育てをみんなで楽しむ地域づくり

子ども・子育てフォーラムの開催

・子育て家庭や支援者が集う子ども・子育てフォーラムをオンラインで実施し、子どもの居場所をテーマに講演や意見交換を行ったとともに、子どもすこやか宣言の普及も行いました。

市民や企業、大学など、多様な立場からの子ども・子育て支援への参画・協働の推進

・4つの中学校区に設置した多様な地域の活動団体や住民で構成する地域づくり推進会議において、大学生等の参画を得ながら、子育て応援企業や子育て支援施設を含む地域情報をまとめた「地域カルテ」を作成しました。

「子ども・若者基金」の設置

・令和2年3月に設置した、「子ども・若者基金」を運用しました。

	指標	策定時 (2018年度)	2020年度 実績値	2021年度 実績値	2022年度	2023年度	中間値 (2022年度)	目標値 (2024年度)
1	子育て情報サイトの開設	-	実施	実施			実施	実施
2	子育て情報モバイルサイト「はち ベビ」登録者数の割合	41.2%	38.6%	33.0%			50.0%	60.0%
3	子ども・子育てフォーラム開催	-	実施	実施			実施	実施

自己評価

B	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て応援サイトを引き続き運用し、イベント情報や子育て支援情報を発信しました。 ・子育て情報モバイルサイト「はち ベビ」登録者数の割合は令和2年度から減少し、33.0%となりました。 ・子育て家庭や支援者が集う子ども・子育てフォーラムをオンラインで実施し、子どもの居場所をテーマに講演や意見交換を行ったともに、子どもすこやか宣言の普及も行いました。 ・地域カルテに子育て関連施設を入れ、地域に周知する準備をしました。
---	--

児童福祉専門分科会による評価

--	--

--

子ども・子育てをみんなで支えるまちづくり 親子が安全・安心に暮らせるまちづくり

親子が安心して暮らし、外出できる環境が整えられているとともに、子どもが安全に遊んだり、通園・通学できるよう、地域の大人の協力による見守りの輪が広がっています。

子ども自身にも自分の身を守る力が育まれており、誰もが自分の地域に関心を持ち、きれいで安心して暮らせるまちづくりを実践しています。

施策30 子どもと一緒におでかけしやすいまちづくり

- 道路や公共施設におけるユニバーサルデザインの促進
 - 道路の新設・改良整備にあたっては、ユニバーサルデザインに配慮し整備を実施しました。
- 子どもや子育て世帯にとって魅力あるまちづくり
 - 鹿島・松が谷地域における「まちづかい計画」の策定に向けて、住民等によるまちを使う活動や様々な施設の望ましい使われ方を検証するための実証実験として、一日子ども動物園や仮設遊具の設置等、若者・子育て世代が魅力を感じる取組み等の検証を行いました。
- 子どもや親子がおでかけしやすい公共交通の検討
 - バスマップの作成及びバスやタクシーのバリアフリー化の促進を行いました。
- 赤ちゃん・ふらっとの周知
 - 子育て応援サイトの地図機能を活用し、赤ちゃん・ふらっとの場所をお知らせしました。

施策31 地域力を活かした防犯対策

- 地域や事業者と連携した見守りやパトロール活動の充実
 - 学校安全ボランティアやスクールガード・リーダーによる見守り活動を実施しました。
 - 町会自治会を対象にした地域防犯リーダー養成講習会を74人に行いました。
- 犯罪・不審者情報のメール・SNSによる情報発信
 - 犯罪・不審者情報のメール・SNSによる情報発信を367回行い、安全を守りました。
- 町会・自治会が行う防犯活動の推進
 - 町会・自治会に対して、防犯カメラ設置・維持のための補助金を交付しました。
 - 町会・自治会へ防犯パトロールの際に必要な腕章・ベスト・合図灯などの物品の貸し出しを38団体に行いました。
 - 新任町会長に対して、防犯パトロール等の内容を盛り込んだ研修を実施しました。
- 小・中学校における子どもの安全・安心確保の取組
 - 小学校PTA連合会が行っている「ビーボくんの家」事業への支援を実施しました。
 - 全小・中学校で安全教育年間計画を作成し、毎月1回避難訓練及び安全指導日を設定しました。また、そのうち9月までに1回以上、地域と連携した避難訓練を実施しました。

施策32 子どもを事故から守るための取組

- 地域が一体となった交通安全点検の実施と対策の推進
 - 学校・警察・道路管理者・町会・PTAによる通学路合同点検を実施しました。交通安全点検に基づき対策工事を実施しました。
- 年齢に応じた交通安全教室・自転車教室の実施
 - 子どもたちが楽しみながら交通ルールを学べるよう、交通公園や保育園などで交通安全教室を194回開催したほか、自転車安全運転免許証発行（小3対象、4,328名）、自転車安全教室（小5対象、3,442名）、スタントマンを活用した自転車安全教育（中学生・高校生対象、4,755名）を実施し交通事故防止を呼びかけました。
 - 子どもの交通安全意識の向上を目的に、小学生交通安全絵画コンクール（16校、838名参加）を開催しました。
- チャイルドシートの適正利用や子どもの自転車用ヘルメットの着用など、子どもを交通事故被害から守る対策の啓発
 - 小学生の交通事故による被害を抑えるために市内在中の小学生に対して、自転車ヘルメットの購入費を助成（子どもの安全安心自転車ヘルメット補助金、1,823件）し、着用を推進しました。
- 家庭内や日々の生活の中での、子どもの不慮の事故を予防するための情報提供
 - 赤ちゃん訪問や乳幼児健診、出張講座等で情報発信するとともに生活状況を確認したうえで、注意を行いました。
 - 子どものまわりにあるさまざまな危険をお知らせする「子どもサポート情報」（国民生活センター発行）を、毎月の消費生活ニュースの発行に合わせて、保育施設へ周知しました。
- 園外活動交通安全ハンドブックを活用した安全確保の取組
 - 公立保育園では、職員が目立つ色のビブスを着用した。園外保育目的地までの経路を事前に把握し危険箇所の有無を確認した。

施策33 きれいなまちづくりの推進

きれいなまちづくりへの啓発活動

・路上喫煙禁止やポイ捨て禁止等の看板・横断幕を設置し、周知・啓発に努めた。また、八王子駅周辺及び八王子駅南口総合事務所にて喫煙マナーアップキャンペーンを実施しました。
・小学4年生児童が作成した「ごみ問題啓発ポスター」1,574枚を、八王子駅北口地下自由通路に掲出し、作成した児童及び作品鑑賞者に環境問題についての意識向上を図りました。

子どもも参加しやすいクリーン活動の実施支援

・子どもたちと地域の大人が一緒に身近な公園や歩道の清掃を行う、青少年対策地区委員会によるクリーン活動を支援し、コロナ感染防止策や他団体の状況に関する情報情報を行いました。中止にせざるを得ない団体もありましたが、実施団体は、感染拡大防止に努めながら創意工夫して実施しました。

指標の実績

	指標	策定時 (2018年度)	2020年度 実績値	2021年度 実績値	2022年度	2023年度	中間値 (2022年度)	目標値 (2024年度)
1	地域防犯リーダーの数(町会等あたり平均人数)	1.7人	2.1人	2.2人			3人	3人以上
2	八王子市内の交通事故の件数(18歳以下)	135件	94件	131件			127件	123件
3	青少年対策地区委員会クリーン活動実施参加地区数	86地区	25地区	43地区			88地区	89地区

自己評価

B

・地域防犯リーダーの数は町会等あたり2.2人となり、令和2年度から0.1人上昇しました。
・18歳以下の八王子市内の交通事故の件数は131件となり、令和2年度から37件増加となりました。
・青少年対策地区委員会クリーン活動実施参加地区数は新型コロナウイルス感染拡大前よりは減少しているものの、令和2年度からは上昇し、43地区となりました。
・新型コロナウイルスの影響で中止していた公共ベビーカー貸出サービス「はち ベビ レンタル」を再開に向けた準備を行いました。

評価

児童福祉専門分科会による評価

課題

若者たちが、様々な人とかわかり、体験を重ねる中で、多様な価値観にふれながら、未来に向かって自分らしく歩んでいます。

重点施策

施策49 一歩を踏み出すきっかけづくり「若者なんでも相談」

人とかわかりあうことや相談することの大切さを伝える普及・啓発活動

若者なんでも相談窓口

・市内高等学校での「総合的な探究の時間」及び大学での出前授業において、若者総合相談センターの周知を行うとともに、悩みを一人で抱えずに他人に頼ることの大切さを伝えました。

・若者総合相談センターにおいて、高校生世代以降の若者の悩みや思いを何でも受け止め、適切な支援につなげました。(利用件数2,826件、相談件数370件、新規相談者数137名)

施策50 若者の視野が広がる教育や普及・啓発

若者の安全・安心な生活につながる普及・啓発

若者にとって生きるヒントが得られるような教育機会の充実

主権者教育の充実

・成年年齢引き下げや若者がトラブルに遭わないための注意喚起情報を大学コンソーシアム八王子を通じて、各大学の学生専用ポータルサイトや保護者専用ポータルサイトへの掲載を依頼するとともに、一部の大学に啓発用クリアファイルなどを配布しました。

・成人式会場前で悪質商法の被害防止の啓発を新成人などを対象に行いました。

・若者を対象とした講座を8講座実施し、延べ212人が参加しました。

・東京都議会議員選挙における投票事務への学生アルバイトの採用し、学生に実際の選挙事務を経験してもらうことで選挙への関心を高めました。

・政治関心を高めることを目的に八王子市内の学校15校における生徒会役員選挙時の投票箱などの選挙機材の貸出の実施するなど、教育委員会と連携を図り主権者教育の促進に取り組みしました。

施策51 若者のキャリア形成

若者の安定した雇用の促進

若者の職場定着支援

大学などの教育機関や地元企業との連携によるキャリア教育の支援

雇用奨励金、若者奨励金

はちおうじ就職ナビによる市内企業の魅力発信

リカレント教育に関する機会の創出

・新卒ハローワーク及び日野市との共催で、新規大卒者等就職面接会を行いました。(1回、参加企業8社、求職者41名)

・はちおうじ就職ナビに登録している企業等に、就職した新入社員を対象に新入社員合同研修(全3日間、参加企業12社、参加者29名)を行い、社会人としての基礎知識の習得を図るとともに、企業の枠を越えた同年代同士で悩みの共有や相談ができる仲間づくりを行いました

・大学コンソーシアム八王子や(公財)東京しごと財団等の共催により合同企業説明会を開催しました。((公財)東京しごと財団主催イベントのうち第1回と第4回を大学コンソーシアム八王子共催で実施)【第1回】参加者107名、参加企業数:18社【第4回】参加者68名、参加企業数:19社

・職業意識を高め、八王子市の市政に対する理解を深めるため、インターンシップの受け入れを実施しました。令和3年度からは受け入れ制度の見直しを行い、協定を結んでいなかった大学ともインターンシップを受け入れることができるようになりました。

・はちおうじ就職ナビに掲載されている企業に入社された若者に奨励金を交付しました。(新規認定者71名)

・はちおうじ就職ナビにおいて、市内252社の企業の魅力を発信しました。(令和3年度より17社増)

・市内のリカレント教育情報を一元化して提供するスマートフォン向けアプリの公開を行いました。

施策52 若者の「今」を応援

若者の文化・芸術分野における活動の促進

・全国公募による3つの団体に演劇作品を創作し、その過程を発信・アーカイブしつつ、配信による上演発表を行うプログラムである八王子ユースシアター2021(全4公演7回上演、オンライン配信)を実施しました。

若者による社会参加・社会貢献活動の促進

・大学コンソーシアム八王子が、学生による地域貢献活動等を支援する学生企画事業補助金を実施しており、令和3年度は、8件に対し補助を行いました。

伝統文化ふれあい事業、学生企画事業補助金、学生発表会、八王子学生CMコンテストの実施

・伝統文化ふれあい事業:八王子車人形をはじめとする各講座を40回(ほか発表会1回)実施し、84名が参加しました。
・学生企画事業補助金について8件に対し補助を行いました。
・学生発表会を一部オンラインにて実施し、199件の発表を行い、814名が参加しました。(会場259名、オンライン555名)
・八王子学生CMコンテストの上映会・表層式の様子をYouTubeで配信しました。(応募作品数:23作品、上映会・表彰式視聴者数:174名)

指標の実績

	指標	策定時 (2018年度)	2020年度 実績値	2021年度 実績値	2022年度	2023年度	中間値 (2022年度)	目標値 (2024年度)
1	「若者なんでも相談窓口」における利用件数	-	576件	2,826件			1,000件	1,500件
2	若者が対象となる生涯学習講座の数	10講座	4講座	8講座			20講座	30講座

自己評価

B	<ul style="list-style-type: none"> ・「若者なんでも相談窓口」における利用件数は令和2年度と比較して2,250件増加し、2,826件となりました。 ・若者が対象となる生涯学習講座の数は令和2年度から4講座増加し、8講座となりました。 ・市内のリカレント教育情報を一元化して提供するスマートフォン向けアプリの公開を行いました。 ・大学コンソーシアム八王子が、学生による地域貢献活動等を支援する学生企画事業補助金を実施しており、令和3年度は、8件に対し補助を行いました。
---	--

児童福祉専門分科会による評価

--	--

課題

--

悩みを抱えた若者が、一人ひとりの状況に応じた支援を受けています。また、支援を通じて、出会った人と関わる中で、安心感を得るとともに、多様な価値観にふれ、安心感を得ながら、社会とのゆるやかなつながりを育んでいます。また、若者それぞれのペースで、地域活動などにも参加し、自分らしさをいかしていく中で、人の役に立てる喜びを感じながら、自分らしいみちを歩んでいます。

重点施策

施策53 働くことや学ぶことへの不安や悩みを抱える若者に寄り添う支援

働くことへの悩みを抱えた若者の支援

・若年無業者就労促進支援事業において、就職したものの退職した若者や、就業経験のない若者などの相談を受け付け、市内の協力企業において経験の浅い若者に不足しがちな就労体験が積めることで、円滑に就職活動を進めることができるよう支援を行いました。(進路決定者数40名)

学びの継続や、学び直しに向けた活動支援

・若者総合相談センターにおいて、不登校や退学している若者の相談を受け付けるとともに、就労に向けた支援が必要な若者については、八王子若者サポートステーションにつなぎ、就労に向けた適切な支援につなげました。
・生活に困窮している世帯で、高校受験に再チャレンジする子どもや勉強の遅れを取り戻したい高校生を対象として、身近な場所での学習支援を実施しました。

中学校との連携による切れ目ない支援

・12月に市内中学校へリーフレットを配布して周知を図ったほか、相談のあった生徒が在籍する中学校と個別に連携を図りました。
・中学卒業間近である1月から3月にかけて、中学生の相談があり、若者総合相談センターでの居場所支援等につなげました。

サードプレイスの創出

・ベルマークの仕分けボランティアや遊びを通して人と話すことに慣れるプログラム活動、安心して好きなように過ごせるフリースペースなどのサードプレイスを若者総合相談センターで提供し、共通の趣味を介した若者同士の横のつながりが生まれました。

図書館における実習、就労体験の提供

・八王子若者サポートステーションから職場実習生の受け入れや、小中学生等の体験学習の受け入れを行いました。

施策54 ひきこもり状態にある若者とその家族への支援

ひきこもり状態にある若者とその家族への支援

若者総合相談センターにおいて、必要に応じて自宅へのアウトリートをを行うほか、はちまるサポート及び東京都ひきこもりサポートネットとの連携により、市内のひきこもり状態にある若者やその家族への支援を行いました。

こころの健康に向けた支援

専門医・保健師による相談やアウトリーチ事業を実施。デイクアや思春期の課題を抱える家族グループは、感染防止対策を取りながら支援を継続しました。

施策55 生活に困っている若者への支援

生活に困っている若者への就労・生活などに関する支援

・生活困窮者自立支援相談窓口では生活に困っている方に寄り添い、相談者の状況に応じて自立に向けた支援を実施しました。

生活に困っている若者の就学に関する支援

・受験料や塾代の貸付を行う受験生チャレンジ支援貸付事業などの情報が支援を必要とする方へ届くよう周知を進めました。

居住支援協議会の運営

・住宅相談会を開催しました。
・居住支援協力店(住宅確保要配慮者の民間賃貸住宅への入居について支援を行う市内事業者)の登録を推進しました。

施策56 若者の非行防止や立ち直り支援

青少年サポートネット・はちおうじによる支援	・八王子BBS会への委託により、非行などの課題を抱える子どもに対し、比較的年代が近いことから身近なともだち感覚で話せる大学生ボランティアが学習支援や交流活動を行いました。
再犯防止推進計画	・令和3年(2021年)4月に策定した再犯防止推進計画に基づき、再犯防止推進会議等を通じて、計画の推進・進捗管理を行いました。
薬物乱用防止の推進・啓発	・標語を募集して、薬物乱用防止ポスター・標語入賞作品展を実施しました。
青少年育成指導員による活動	・228名の育成指導員による3,200回以上の巡回活動など、地域の実情に応じた健全育成活動を実施しました。

施策57 様々な生きづらさを抱えた若者への支援と支え合い

障害のある若者などへの支援	・障害者就労・生活支援センター「ふらん」などとの協働により就労面と生活面の一体的な支援を行いました。
外国人へのコミュニケーションや生活面に関する支援	・若年無業者就労促進事業の支援メニューにおいて、外国にルーツをもつ若者を対象とした、就労に向けた日本語等のオンライン学習講習会を行いました。
自殺対策に関する市民への普及・啓発及び支援者の人材育成	・自殺対策強化月間(9月・3月)に、広報等掲載・CM放送や関係機関へのちらし等の配架依頼を実施しました。また、支援者向け研修はweb研修(動画配信)を行いました。
LGBT電話相談などの実施	・性的指向・性自認など、性の多様性を尊重するための意識啓発と情報提供を行いました。(電話相談件数16件、LGBT講演会「元女子高生、パパになる」(参加者26名))

指標の実績

	指標	策定時 (2018年度)	2020年度 実績値	2021年度 実績値	2022年度	2023年度	中間値 (2022年度)	目標値 (2024年度)
1	「若者なんでも相談窓口」における支援機関の紹介件数	-	180件	290件			300件	450件
2	八王子若者サポートステーション進路決定者数	42人	37人	40人			60人	70人
3	生活に困っている若者の新規相談申込件数	210件	399件	460件			290件	320件

自己評価

B	<ul style="list-style-type: none"> ・「若者なんでも相談窓口」における支援機関の紹介件数は前年度から110件増加し、290件となりました。 ・八王子若者サポートステーション進路決定者数は前年度から3人増加し、40人となりました。 ・生活に困っている若者の新規相談申込件数は前年度から61件増加し、460件となりました。
---	---

児童福祉専門分科会による評価

--	--

課題

--

若者の社会的自立に向けた応援・支援 地域で若者を応援する環境づくり

地域では、様々な人々が温かなまなざしを向けながら若者を応援する、ゆるやかなつながりが広がっています。こうした中、若者たちには、生活に必要な情報や関心が持て、親しめる情報が届いています。若者たちは、安心してこちよく暮らせる地域に目を向け、経験を重ねる中で、様々な世代の人と関わり合うことの大切さを理解しています。

重点施策

施策58 支援の輪が広がるネットワーク

若者なんでも相談窓口を核とした支援機関を結ぶネットワーク

・若者総合相談センターにおける様々な支援機関との連携を強化するため、はちまるサポート、保護司会、消費生活センター、就労支援機関及び福祉事業者等の地域の支援窓口への巡回訪問を行い、窓口の状況に関する相互の情報収集に努めました。

中学校・高校・専門学校・大学などの教育機関との連携による支援の充実

・在学中の教育機関との連携を図り、卒業後等に円滑に若者総合相談センターの支援につなげられるよう、各種教育機関への若者総合相談センターの周知及び個別連携を図りました。

・高校の「総合的な探究の時間」及び大学授業への出前授業において、学生・生徒へ直接若者総合相談センター及び若者サポートステーションの支援内容について周知しました。

・大学コンソーシアム八王子の情報発信事業として高校生向け情報誌を16,000部作成し、市内の高校や進学ガイダンスで配布しました。

支援者への支援

・青少年対策地区委員会に対し、東京都によるアドバイザー派遣事業を周知しました。
・重層的支援体制整備事業におけるひきこもり支援部会において、若者総合相談センター相談員が支援に関する事例発表を行い、他の支援機関のスキルアップに貢献しました。

「(仮称)若者支援協議会」における支援体制づくり

重層的支援体制整備事業におけるネットワーク会議及びひきこもり支援部会へ出席し、関連機関との関係づくりを行いました。

生活困窮者自立支援ネットワーク会議

関係機関と情報共有を目的として生活困窮者自立支援ネットワーク会議を開催する等、関係機関と連携して、生活困窮者の早期発見・早期支援に努めました。

重点施策

施策59 若者ニーズのキャッチと情報発信

若者が親しみやすい様々な媒体による情報提供

・若者総合相談センターにおける各種活動を周知する内容をセンター公式ツイッターに掲載しました。掲載に当たっては、ハッシュタグを立てることで、関心の有無に関わらず幅広く若者世代の目にふれるよう工夫しました。

若者による地域でのボランティアなどの活動の発信

・若者総合相談センターにおける活動メニューとして、センター近隣神社での行事への参加、センター近隣地域や高尾山薬王院での清掃活動、大塚西公園での池清掃への参加等の活動を実施しました。

・大学コンソーシアム八王子の八王子地域学生活動連絡会主催のシンポジウム内でボランティア活動を行っている学生が登壇し、参加者に対して活動についての紹介を行いました。

東京都などとの連携や支援機関への情報提供

国・東京都が実施するSNS・チャット相談についての市HPにおける周知を充実させたほか、東京都ポータルサイト「若ぼた」に八王子市若者総合相談センターの記事が掲載されました。

	指標	策定時 (2018年度)	2020年度 実績値	2021年度 実績値	2022年度	2023年度	中間値 (2022年度)	目標値 (2024年 度)
1	若者施策に携わる支援者への研修参加人数	545人	324人	218人			610人	660人
2	「若者なんでも相談窓口」における若者支援ケース会議の開催数	-	66回	83回			15回	20回

自己評価

B	<ul style="list-style-type: none"> ・「若者なんでも相談窓口」における若者支援ケース会議の開催数は令和2年度から83回に増えました。 ・若者総合相談センターにおける各種活動を周知する内容をセンター公式ツイッターに掲載しました。 ・大学コンソーシアム八王子の情報発信事業として高校生向け情報誌を16,000部作成し、市内の高校や進学ガイダンスで配布しました。 ・若者施策に携わる支援者への研修参加人数は、青少年育成指導院への研修をコロナ禍の影響で見送ったため、令和2年度から106人減少し、218人となりました。
---	--

児童福祉専門分科会による評価

--	--

--

若者へ対する市民の理解が深まり、地域では若者の立場や状況を尊重した支援や応援の輪が広がっています。若者たちは様々な活動を通じて出会った人々に感謝を重ねながら、住み慣れた地域でいきいきと暮らしています。互いに支え合う地域社会で、それぞれの若者が人とのつながりを育みながら、自分のみちを自分らしく歩んでいます。

重点施策

施策60 いかしていこう！若者の声

高校生・大学生などによるまちづくりに関する提案事業

・令和4年2月13日、オンライン方式により「高校生によるまちづくり提案発表会」を開催しました。市長・教育長への発表のほか、より多くの高校生が参加できるようポスター発表部門を設けました。

・大学コンソーシアム八王子加盟校の学生が地域課題の解決へ向けた提案を行う学生発表会を行いました。発表件数：199件（口頭発表134件、ポスター発表47件、展示発表18件）参加者数：814名（会場259名、オンライン555名）

市の長期ビジョン策定における若者の参加

・拓殖大学、創価大学に対して長期ビジョンについて講談しました。

・SNSで素案パブリックコメントへの意見を呼びかけました。

・懇談会参加者に若者（20代）が参加しました。

市の各種審議会への若者の参加

・若い世代の市民参加を進めるため、市民参加推進審議会に「若い世代の市民参加の推進について」を諮問し、有効な方策について議論いただきました。

子どもミライ会議の開催

・子どもが市長・教育長を前にまちづくりについて意見を発表する子どもミライ会議（12月12日・市役所会議室）を開催し、子どもの委員19名が参加しました。

地域づくり推進会議における若者の参加

・地域づくり推進会議の設置に向けた「中学校区別ワークショップ」に高校生・大学生が参加しました。

・現在設置している地域づくり推進会議に、若者が参加しました。

施策61 若者の活動・チャレンジを応援

企業や大学、市民団体などとの連携・協力事業の推進

・市民活動支援センターにおいて、若者支援を行っている団体に対する活動支援を行いました。

地域を支える若者の活動の支援

・少年の非行などからの立ち直り支援を行ってBBS会の活動の下支えとなるよう、会の紹介リーフレットの配布を市各施設にて行ったほか、イベント実施のための会場の優先予約を行いました。

創業を志す若者の支援

・令和3年度（2021年度）はサイバーシルクロード八王子において「本気の創業塾」を6日間にわたり実施しました。（10/23～11/27）

アスリートや有資格指導者の活躍の場の創出

・スポーツ教室を開催するにあたり、地域にゆかりのあるアスリートに講師を依頼しました。

重点施策

施策62 若者の活動拠点づくり

（仮）ユースセンター構想（児童館のあり方）

・児童館のあり方を見直す中で、若者が利用しやすい児童館について大学生の意見を聞くなどし、検討しました。

公共施設や、空き家などにおける活動への若者参加の促進

・学園都市センターについて、学生利用の更なる促進を図るため、SNS（Twitter）を活用し、施設を利用する学生団体との交流促進をしました。

・図書館整備を目的に中央大学の学生と共同研究を行いました。

街なかにおける自習スペースの提供

・「学生のためのフリースペース」を実施しました。

・中央館では使用しない時間に部屋を開放し、自習スペースを提供しました。

公共施設の利用料金の学割設定

・学園都市センターにおいて、大学・短期大学・高等専門学校・高等学校に在学する学生で構成する団体が利用する場合、利用料金を減額（40%～75%）しました。（一部条件あり）

	指標	策定時 (2018年度)	2020年度 実績値	2021年度 実績値	2022年度	2023年度	中間値 (2022年度)	目標値 (2024年 度)
1	若者が参加する市の審議会の割合	-	7.6%	6.6%			10%	15%
2	大学等と市の連携・協力事業数	267件	136件	140件			328件	340件以上

自己評価

B	<ul style="list-style-type: none">・若者が参加する市の審議会の割合は令和2年度から減少し、6.6%となりました。・子どもが市長・教育長を前にまちづくりについて意見を発表する子どもミライ会議を開催し、子どもの委員19名が参加しました。
---	--

児童福祉専門分科会による評価

--	--

--